

いしかわ



融資あれども心削られ



常連客の支えに感謝しながら厨房に立つ前田さん
＝金沢市柿木畠

春に3年無利子の「コロナ緊急融資」2700万円を受け、当面は余裕があるはずだった。だが

8月の片町クラスター発生でまた客足が止まった

外国人観光客を狙った新店は、特に低調を極めた。一人で客を待つ時間が長くなり、気持ちがひさいだ。

春に3年無利子の「コロナ緊急融資」2700万円を受け、当面は余裕があるはずだった。だが

2店目をオープン。昼は新店、夜は本店とかけもちして忙しく働くつもりだった。直後に新型ウイルスが直撃した。

「しばらく休んで再開したが、8月の片町クラスター発生でまた客足が止まった」

外国人観光客を狙った新店は、特に低調を極めた。一人で客を待つ時間が長くなり、気持

つた。金沢市内で飲食店を営んでいた40代男性は2月、念願の

2店目をオープン。昼は新店、夜は本店とかけもちして忙しく働くつもりだった。直後に新型ウイルスが直撃した。

「しばらく休んで再開したが、8月の片町クラスター発生でまた客足が止ま

②飲食店

売り上げが戻らないまま、家賃など固定費が毎月2店分、消えていく。「手持ちが減ることに、メンタルが削られた」

9月、心が折れてしまった。

自己破産を決断し、2店とも閉められた。年明けに金沢を離れ、奥能登で一からやり直すという男性は「コロナさえなければ」と悔しそうに言葉を絞り出した。

無利子3年はすぐ

「今年はまだ破産の例はあまり聞かないが、来年、再来年は増えるかもしれない」。県内飲食店の状況について、内田清隆

法律事務所(金沢市)の弁護士、永來宏隆さん(33)はそうみる。コロナ緊急融資の上限は4千

万円。個人経営の小さな店なら年内は十分しのげる。ただ無利子の3年はあつという間だ。売

り上げが戻らなければ窮地はすり上りが戻らなければ窮地はすり迫る。

いのだから
頼みは地元客

の足を踏む飲食店主もいる。

フレンチ、ジョージア料理の「パザパ」(金沢市柿木畠)の店長、前田洋昭さん(40)が受けた融資は1200万円。「最悪、店を開めたとしても自分で働いて返せる分だけ借りよう、と。怖いもん」

客のない夜もあるが、19日は予約でまずまずの入りに。「来てくれるのはほとんど常連さん」。頼みはやはり地元客だ。

親身に相談に乗ってくれる商店街の先輩たちも心の支えになつた、と前田さんは話す。なつた、と前田さんは話す。昔ながらの近所付き合いが残る商店街で、個人店が身を寄せ合つように、吹きすさぶコロナの逆風がやむのを待つてい